

どうすればいい？～初めてのARDF～

●はじめの三歩

ステップ 1 競技を見学

ARDFがどんなものか、まずは見てみましょう
どの大会も見学だけなら無料でできます

ステップ 2 受信機を用意

安価な中国製受信機が初心者にはオススメ
アマチュアのハンディ機でも参加は可能

ステップ 3 大会参加準備

運動できる服装＋雨対策できればOK
あとは、ほんの少しの勇気があれば大丈夫!!

ステップ 1 競技を見学

ARDFがどんなものか、まずは見てみたいものです。どの大会や練習会も無料見学可能。年間開催数は多くありません。都合が合うと思ったらすぐに主催者に連絡してみましょう。

選手の出走は一度に5人程度で、5分間隔で順次スタート。スタートでは、ダッシュで飛び出す高校生もいれば、のんびり歩きだす年配の方など様々です。

スタートを見送ったらゴールに移動しましょう。競技時間は2時間が一般的。程なく選手がゴールしてきます。颯爽と駆け抜けてゆく選手も有れば、ボロボロで歩いて帰る選手も。

大会でなく練習会の場合、飛び入り参加できることがあります。受信機を貸してもらい、競技の流れを説明してもらえたりします。



ステップ 2 受信機を用意



気楽に始めるには中国製受信機がオススメです。3.5 MHz受信機(左写真)はキットのR3500D型製作講習会がJNに掲載されることがありますのでチェックしてください。144MHzのRF-2D(右写真)は8000円程度ながら入門者用・大会用としておすすめ。入手方法のお問い合わせは p-ardf2016@freeml.com までお願いします。

また、受信機買わなくても大会主催者が当日貸してくれます(笑)。



ステップ 3 大会参加準備

受信機も買ったし、後は申し込むだけ。

しかし、まだ用意するものがあります。

服装：オリエンテーリングウェアの人もあれば、学校ジャージでもOK。

普段着だと汚れますよ

装備：水分補給の水筒、熱中症防止の帽子、など

磁石：オリエンテーリング用が具合が良い

時計：タイムオーバーは失格なので、残り時間を把握するため、ストップウォッチかタイマー機能付きがよい

地図ホルダー：画板などを使うと、データなどを記入しやすいです

ホイッスル：万が一ケガで身動きが取れないときに助けを呼ぶのに有効です

雨対策：通常、大会は雨が降っても開催されますので、かっぱなど雨対策が必須です



ARDFとの再会

ルールは変わっても、TXを発見したときのトキメキは変わりません！

JH4ELJ 陶山 正治

○私の無線歴

高校2年の時、電話級(4アマ)を取得し開局、その後は上級資格を取得し、HFでCW運用したりコンテストへ参加していましたが、近年は電波の方はQRT状態です。

ARDFの方も平成12年頃までは参加していましたが、その後ご無沙汰になり、平成26年に十数年のブランクを経て再開しました。

○ARDFを始めるきっかけ

所属クラブの方が審判員をされていた関係で「受信機は貸すから参加してみたら」と誘われ、よくわからないまま参加・・・しかし参加してみると、見つけられない悔しさと見つけたときの安堵感は何物にも代えがたく、すっかりARDFの虜とりこになってしまいました。

ちなみにその時お借りした受信機は未だに借りっぱなしです(^_^)

○1998全日本大会で...

その後は、熱心なOMから「エントリーしとらんのか！」との強力なお誘いを頂いていたこともあり、広島県内の大会は参加していました。

そんなとき、平成10年(1998年)の全日本大会が広島県内で開催されることを知り、当時は地方大会からの選抜制だったため、出場資格を得るべく地方大会へ参加。頑張った甲斐あって、無事に全日本大会へ出場資格を得ることができました。

そんな全日本大会の開会式でのこと、審判長が隣に現れ、「選手宣誓の予定者がダメと言いだしたけえ、頼むで！」と言って去ってしまった・・・にわか仕立ての文面で、どうにか選手宣誓を終えました。競技成績の方は52秒のタイムオーバー！これも忘れられない思い出になりました。

○16年ぶりの全日本大会

その後も県内の大会には参加していましたが、いつも誘ってくださっていたOMがサイレントキーとなり、いつの間にかARDFから遠のいていました。

そんな頃、JNで平成26年(2014年)の全日本大会が福山市で開催されることを知り、選抜制は無くなりフリー参加になっていることから久しぶりに参加。3.5MHzは受信機を持っていなかったため、144MHzのみです。

その後、3.5MHzの受信機を入手してからは滋賀県での2015全日本大会や長野大会など、遠方の大会にも進んで参加しています。2015全日本大会の際は、琵琶湖1週約200kmを1日かけてサイクリング、長野大会では蓼科山や霧ヶ峰への登山なども楽しみました。

○昔取った杵柄

十数年ぶりのカムバックで、クラス分け等のルールも変わり、参加者も中高生が大幅に増えているなど、“浦島太郎”でしたが、初めの1個を見つけたときのトキメキと上位入賞したい気持ちは、今も昔も変わりません。

これからも各地の大会へ参加すべく、スロージョギングを取り入れて体力の維持に励んでいます。



TH-F7でARDF参加してみた

TH-F7はV/UHFハンディトランシーバーですがオールモード広帯域受信機とバーアンテナを内蔵していてAMラジオも聞けます。これを使って3.5MHzのARDFを楽しめました

JQ1CON 高雄宏治

☆準備

TH-F7で地元のAM放送局を受信し、ヌル特性の出方を調べました。そのためには地元AM放送局のアンテナがどこにあるか知っておく必要があります。また、イヤホンで聞かないと強弱がよくわからないのですがTH-F7にはイヤホンがそのまま挿せません。ハンドマイクを買ってそこにイヤホンを挿すことにしました。



☆挑戦

平成28年(2016年)年5月14日、ARDF群馬県支部大会スプリント競技に参加しました。

探索方法は、TH-F7の側面を東西南北にぐるぐる回し、一番信号が弱くなる方向を探知する、いわゆる「ヌル探索」を行いました。これでは送信機方向はわかっても前後がわかりません。ARDF専用受信機ではヌル探索のちアンテナ特性をスイッチで切り替えてカージイド探索で前後判定を行います。そんなスイッチはTH-F7にはついていません。まあどっちかに行けば信号の強弱変化もわかるし何とかなるか・・・

成績は最下位から2番目でしたが送信機10個中8個を見つけてゴールしました。

☆大会での探索状況

TH-F7を大会で使ってみてその長所短所をあげてみます。

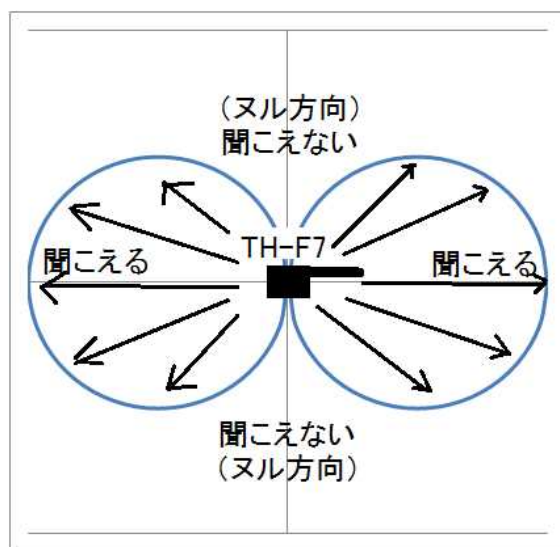
長所

TH-F7は周波数がPLL直読なので安心感があります。PJ-80ではダイヤルに印をつけただけなので、信号が聞こえなくなった時、ダイヤルがずれたのか信号が弱いかわからなくなり、手がかりの信号を受信できるまでの移動量が多くなりタイムロスになります。

短所

TH-F7はPJ-80に比べて感度が悪く、今回のスプリント競技で送信機から50m離れると信号が聞こえなくなりました。他の競技者の受信機では250mまで聞こえたとの話もあり、これではスタートから最初の送信機にたどり着くまでの速さに差が出るのも当然です。

TH-F7はカージイド探索ができないので、前後判定ができません。そのため私は送信機近辺で行ったり来たりを繰り返す羽目になりました。



ハムフェア2016 出展のご報告

8月20日～21日、東京都江東区の東京ビッグサイトで開催された、アマチュア無線フェスティバル「ハムフェア2016」へ出展し、来場の皆さん、特にジュニアハムの皆さんにARDFをPRすることができました。

また今年も、全日本ARDF競技大会の特別記念局「8N0ARDF」の出張運用も行いました。2日間FMのみで約260局とQSOしました。QSLカードは、10月1日・2日当日の写真を使って作るそうで、後日ビューロー経由で発送いたします。運用スケジュールを調整くださった、JA0BQV金子・新潟県支部長ほか関係の皆様にご挨拶申し上げます。

会場内では144MHz帯による受信デモを行いました。あえてふたを開けた受信機を使い、足を止めてくださるお客さんにPRする作戦です(笑)



特別記念局「8N0ARDF」
簡素な設備ですが交信相手はほぼ100%
会場内です

会場外の公園では恒例の「お試し会」を、ささやかながら開催。全くの初心者の方にも144MHzによる方向探索を体験頂きました

